

2019年

9月 市民公募委員サロンだよ！

令和元年度第1回市民公募委員サロンを開催しました。



- 対象：京都市の附属機関等で市民公募委員として就任している皆様
- 日時：令和元年9月9日（月） 午後6時45分から午後9時まで
- 場所：職員会館かもがわ 大会議室
- タイムテーブル

18:45	開会、趣旨説明
19:00	ゲストトーク「市民公募委員って、どんな活動をしているの？」 ～多くの附属機関等の会議を傍聴しているゲストの話をお聴きしてみよう！～
19:35	少人数グループで話し合い
20:25	全体共有
21:00	閉会

開催
目的

- ・各会議で市民公募委員の積極的な発言が増え、市政への参加意欲が一層高まるよう市民公募委員が自身の役割を学ぶとともに、様々な委員と交流して意見交換を行う。
- ・市民参加推進フォーラム委員が、他の附属機関等の公募委員の実情を理解する。



参加者

28名

・市民公募委員	12名
・京都市職員(一般参加)	2名
・ゲスト	1名
・市民参加推進フォーラム委員	9名
・市民参加推進フォーラム事務局	4名

※ 市民参加推進フォーラム：京都市の市民参加を推進する附属機関

ゲストトーク「市民公募委員って、どんな活動をしているの？」

【司会】



兼松 佳宏 氏

「市民参加推進フォーラム」
委員

【ゲスト】



新妻 人平 氏

「市民参加推進フォーラム」
元市民公募委員
○京都市の様々な附属機関等
の会議を傍聴している。

他の審議会はどんな雰囲気ですか？

・会議ごとに、しつらえや雰囲気はかなり違う。ホテルの披露宴会場のような場所で行っている会議もあれば、役所の会議室で行っているようなものもある。色々な審議会議を傍聴しにしてみることをお勧めする。(新妻)

市民公募委員は本当に必要なんですか？

・必要だと思う。公募委員が入ることで、専門家と異なる視点で話が広がる。そもそも、必要があるからこそ制度として整えられてきたのだと思う。市民公募委員の発言で、議論に新しい流れを作ることできる。「求められているからこそいるのが公募委員」という想いをもち、積極的に発言して欲しい。(新妻)

→会議で発言したら、委員の中でも重鎮の方らしき人に自分の意見を否定されたことがある。(参加者(公募委員))

⇒事務局や、進行役を担う座長の声掛けの仕方が大事である。事務局や座長には、「一市民としての発言を求めているので、発言して欲しい」という姿勢でいてほしい。(新妻)

どうしてたくさん審議会議を傍聴しているんですか？

・市民参加推進フォーラムや、100人委員会委員をしていた経験があり、好奇心が強いこともあって、京都市が今後どうなっていくのか、という点について興味がある。審議会議では、5年後、10年後といった近い将来のことが議題に挙がっていて参考になる(ex.都市計画、景観、まちづくり、交通)。(新妻)

→審議会議の開催情報等はどのように得ているのか。(参加者(公募委員))

⇒京都市の公式HP「京都市情報館」で確認している。基本的には傍聴可能な会議ばかりである。傍聴者がコメントできる審議会議もある(市民参加推進フォーラムなど)。(新妻)

市民公募委員がより手応えを感じるために今すぐできることは？

・「市民公募委員として私は何を求められているのか」ということを、事務局に聞いてみるはどうだろうか。自身に求められる役割を知ってから会議に臨むと、発言の仕方についても変わってくるのではないかと。(新妻)

・また、会議以外の場で、自分の周囲の市民の声を拾ってくるという役割もあると思う。会議以外の時も「委員」であるという自覚をもって積極的に市民の声を拾い、会議の場でそれを施策に活かす...という活動の仕方もあると思う。(新妻)

意見交換・全体共有



参加者の方が話し合っていたテーマをA4の紙に書き、

- ① 似ているテーマ
 - ② 一緒に話すと面白い化学反応が生まれそうなテーマ
 - ③ 自分のテーマを捨てても話し合いたいテーマ
- の観点から6つの小グループに分かれ、意見交換を行いました。



“やりがい”

- ・やりがいを感じるのは、自分の発言がフィードバックされたとき、仕事に活かされているという実感を得られたとき。
- ・一市民としての意見が求められているが、公募委員的には公募委員の人数の少なさから「市民代表として発言しなくちゃ」と気負ってしまう。
- ・だからこそ、コミュニケーションが大事。
- ・事務局と公募委員間のコミュニケーション、公募委員からのコミュニケーションが大事。

“事務局・公募委員、それぞれに求めることは何？”

- 事務局に求めること
 - ・会議日程は丁寧に調整して欲しい。
 - ・事務局と座長との事前打合せで、「公募委員にも話を振って」と共有しておいてほしい。
- 公募委員に求めること
 - ・専門家でカバーできないことを埋める（市民目線で素直な意見を言う）という意識をもって会議に臨んでくれると嬉しい。
 - ・話し合いのプロセスを楽しむ、という意識をもってほしい。

“もっと中核に入るにはどうすればいいか”

- ・ファシリテーター的存在が必要。
- ・資料をもっと早く配布して欲しい。
- ・委員同士が結束力があると、逆に話し合いに入りづらいということもある。
- ・若い人も発言しやすい雰囲気があればいい。
- ・事務局への“リクエスト”が大事。
- ・前向きに発言する、コミュニケーションをとる姿勢が大事。



“市民公募委員の選任方法の見直しについて”

- ・市民参加の場に入りたいと思う市民の母数を増やす取組ができないか。
- ・市民の学びの場としての公募委員の選任を考えたい。
- ・一度公募委員を経験して、市政を知ったら、もう市政を無視することはできず、市政参加する市民となる。



“公募委員に何ができる？ 公募委員はどうできる？”

- ・専門家の委員は、公募委員のいる意味、役割を知っているのか疑問。
- ・何を話す委員会かを事前に知っておかないと、発言内容が場とズれる。
- ・具体的な意見を言いたくなるが、そうした意見はスルーされがち。
- ・事務局は、会議内容を説明する際も、枝葉についてではなく大事な幹の部分の説明することで、委員の発言も、施策に反映しやすいものになるのではないか。



“限られた機会での役割を果たすには？”

- ・公募委員の役割…多様な声を発言する役割、利害関係にとらわれずに発言する役割。
- ・誠実であれば、どんな意見を言ってもいい。
- ・事前説明があったり、先輩委員とつながるきっかけがあれば、会議でも発言しやすくなるのではないかと。
- ・自分たちで解決できることは解決して、会議に臨みたい。そのためには、事前説明は大事。



「市民公募委員サロン」アンケート

1. 参加の動機

- ・公募委員になって一回も参加したことがなかったから。
- ・自身の委員としての役割、期待されるものが不明だったから。
- ・他の委員の方々は、どんな議題を、どんな感じで話し合っているのか知りたかった。

2. 参加後の心境の変化や抱負

- ・次の委員会が楽しみになった。
- ・「わからない」なら「わからない」と発言しようと思う。
- ・「市民代表」という意識が強くなったが、「一市民」の気軽さがあっても良いと思えて楽になった。

3. 良かった点

- ・色々な委員さんと話すことができた。
- ・横のつながりができた。
- ・市民公募委員の本当の役割が議論されたと思う。
- ・同じような気持ちの市民委員の方々と話し合い共感できてよかった。

4. 改善した方がよい点

- ・年に2回じゃ、足りないと思う！
- ・どんな集いで何をするかを案内にはっきり書いてほしい。
- ・公募委員になった当初にこういった会に参加したかった。
- ・参加案内の期間が短かったので、もう少し長い方がよい。